

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197600364		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームおやふね		
所在地	石狩市親船町20番地1		
自己評価作成日	平成27年10月11日	評価結果市町村受理日	平成27年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人個人の生活習慣を尊重し、家庭の延長として生活が出来るように支援しています。医療機関との連携を密にして、健康不安の軽減を図っています。親会社が給食事業を行っている強みを活かし、治療食などに対応しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0197600364-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年12月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

石狩川河口近くの住宅地にある平屋建て1ユニットのグループホームである。近くには漁港や石狩温泉の施設、宿泊施設、観光センター、郵便局などがあり利便性が高く、いつでも海や川に出かけることができる立地である。建物は広い共用空間が中心にあり、両側に事務所カウンターとキッチンが配置されている。居間の外にはウッドデッキがあり、玄関への扉はガラス戸のため、開放的である。床暖房で快適な温度が保たれ、季節の装飾がふんだんにあり家庭的な雰囲気となっている。また、トイレが4か所あり、浴室や脱衣所も暖かく過ごせるようにしている。職員が利用者によりやさしく穏やかに接しており、利用者も自由にゆったりと過ごしている。自己評価の作成にあたって職員が参加してサービスの改善に取り組んでおり、前回の外部評価の取り組み事項に対しても、改善を実現している。近くから入居した利用者が多いため近隣住民の訪問も多く、子供達との交流については、小学校の運動会の見学を実現している。家族との関係では、家族意見の記録を整備するとともに、お便りの作成頻度も増やすよう取り組んでいる。法人のバックアップのもと、各種のマニュアルや書式が整備されて記録類の充実も進められており、介護計画や介護記録も分かり易く整っている。災害対策も備蓄品や防災マニュアルの整備が進んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で意見を出し合い、作成した理念をホーム各所に掲げ、ケアを行ううえでの指針にしており、カンファレンスの時に新しい取り組みが理念に即しているかを確認している。	事業所独自の理念の中に「地域との関わりを大切ににする」という文言を入れ、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念としている。理念を事務所や休憩室に掲げ、申し送りやカンファレンスの際に確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、町内敬老会、夏祭りや地元のさけまつりなど地域の行事に参加している。近隣の小学校の運動会見学や散歩の時は近所の方と会話を交わすなど交流を深めている。	清掃や敬老会、夏祭り等の地域の行事に利用者と一緒に参加している。近くから入居した利用者が多いため、近隣住民の訪問も多い。課題としていた子供達との交流については、小学校の運動会の見学を実現している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そこまでの取り組みは出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実施内容、行事活動報告、事故報告等の話し合いを行っている。年間予定表や開催案内などを送付しているが参加者増加はしていないのが現状である。	会議は2か月毎に開催され、市や地域包括支援センター職員、民生委員の参加を得ているが、町内会役員や家族の参加はあまり得られていない。年間予定や防災、外部評価など、年間テーマを設定している。また、議事録を家族に送付している。	会議に町内会役員や家族の参加が得られるよう、継続的な働きかけを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退きの相談や状況報告、勉強会などの連絡などで協力関係を築いている。	市や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加するほか、月に2～3回は市役所に出向いて相談をしている。市の職員が事業所に来訪し、制度変更の説明を受けることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを参考にし全体会議での勉強会を行い、拘束をしないケアに取り組んでいくよう話し合いを行っている。	身体拘束は行われておらず、禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルを整備し、年1回程度の勉強会で理解を深めている。玄関は夜間のみ施錠しており、日中は自由に出入りができる。出入りがあれば内側の戸の鈴が鳴り、分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議で虐待防止の勉強会や支援についての話し合いの場を持ち、虐待が見過ごされることがないよう職員全員で注意を払い、防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム おやふね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会は開催されており、外部研修などに参加して学ぶ機会を増やしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には十分に説明を行い、理解、納得を図っている。改定の際は、本社より書面での説明と電話連絡、ホーム来訪時に管理者からも説明、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時や電話連絡時に積極的に近況報告や意見を聞き、申し送りやカンファレンスなどで内容を確認し、運営に反映させるよう努めている。	家族の来訪時や電話をした際に意見を聞き、得られた意見は個人毎の「支援経過記録」に記載し、共有している。2か月毎に、個人毎、写真入りのお便りを作成して家族に提供しており、今後は毎月作成する予定としている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月のカンファレンスで職員が意見交換する他、随時職員から意見を聞いて対応している。また行事計画は職員が交代で担当し、運営に参加している意識を持ってもらうようにしている。	毎月のカンファレンスの際に業務や行事のことも話し合っており、職員が活発に意見交換をしている。管理者は職員と随時面談を行っている。行事や室内装飾を職員が交代して担当し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事部より職員に対して就業環境、希望調査などのアンケートを毎年行っており、意見が反映されやすい環境が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で取り組んでいる階層別研修、目的別研修など盛んに行われており、積極的に参加し職員を育てる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの集まりへ参加したり、同法人の内部研修会などで職員同士の交流する機会を設け、サービスの質の向上への取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談をさせていただき、支援の必要な事や、趣味嗜好などをケアに取り入れ、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族ごとに異なるニーズや方向性に対応する為、入居前に面談を行い、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族記載のフェースシートと実際が違う事があるが「その時」で見極めて変更して、必要な支援を出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状況を見極め、一緒に食事準備、片付けなど出来る範囲で行い、お互いに信頼し合い、立場をわきまえ、快適に過ごせる様に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族に逐一報告し、家族と一緒に本人に対して何を支えていくのが良いのかを考え行動している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には馴染みの物を持って来てもらっている。また友人、知人が訪問してきても自由に面会をしてもらっている。	3名ほどの利用者に対して月1回程度、近所に住んでいた知人が来訪している。利用者が手紙を書く際は宛名書きや投函を手伝っている。家族と一緒に食事や買い物に出かける方もいる。敬老会や新年会で、近くの弁天会館に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要以上の介入は避け、入居者同士で身体を心配し合ったり、孤立する事の無いようにさり気なく関わりを持つように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じ、相談に乗って対応して支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や家族からの情報を元に会話に重点を置き、把握に努めている。希望を出すことが困難な場合は表情、暮らしぶり等を通して検討している。	言葉で思いや意向を表出できる方が多く、難しい方の場合も問いかけた際の反応などから把握している。アセスメントシートは新様式にして整備を進めているが、情報の蓄積は十分といえない。	アセスメントシートについて記入内容を徐々に増やし、個々の思いや暮らし方の希望などの情報を充実させることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントツールを利用し、家族から情報収集をしたり、日頃の会話を通し、興味のある事等を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録やカンファレンス等を通して現状の確認と把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフからケアカンファレンスだけではなく、日常業務等の報告から情報を得ている。また直接ご本人へニーズ確認やご家族来訪時などに意見を求めるなどして介護計画を作成している。	介護計画を3か月毎に見直し作成している。家族や職員意見を集約し、モニタリング表を作成して評価を行い、計画を更新している。日々の記録はケアプラン番号を記載しながら、目標に沿った記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記載して、職員全体で情報共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務をあまり詰め込み過ぎず、急なニーズに対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物に参加したり、ボランティアセンターを活用するなどして、地域で楽しみを持てるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療はご家族同意のうえで開始し、その他の必要な受診はご本人、ご家族と相談し受診している。	全員が2週に1回、内科の協力医の往診と週1回の訪問看護を受けている。他科の受診も事業所で送迎している。受診内容を個人ごとの「受診記録」に記載し、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護により、日常の健康管理を行い、必要時にはいつでも連絡、相談が出来る体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を結んでいる病院はもとより、その他の地域の病院とも連絡をとり、情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に係る指針として説明し、同意を得ている。	利用開始時に「利用者様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、署名捺印を得ている。過去に事業所での看取りの経験はないが、将来的に体制が整えば看取りを行う方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に対するマニュアルは全員で把握している。職員は交代で研修等に参加して他職員にフィードバックを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、防災設備会社の協力を得て年2回避難訓練を行い、地域の方にも協力を得ている。	年2回の昼夜を想定した避難訓練を消防や地域の協力のもと実施しており、職員の救急救命訓練も今年度中に全職員が受講する予定である。災害時に必要な備蓄品を用意しており、地震や水害に対する対応も話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方々に合わせた声掛けや対応をし、ご本人のプライドを傷つけないように配慮している。	職員の採用時や社内研修で接遇やマナーの学習をしている。書類はキャビネットに保管しプライバシーの保護を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けではなく、自己決定が出来るような声掛けを意識して行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の時間は目安であり、一人一人の生活リズムに合わせた支援が出来るように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前の着替えや準備、外出時の洋服などをご本人と選ぶようにして、鏡やブラシなども用意し、身だしなみに配慮している。		

ふれあいの里 グループホーム おやふね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせ下膳や食器拭き等を行っている。行事によっては献立の変更や誕生日会には職員による手作りケーキ、また外出、出前等を楽しんでいただいている。	本社からメニューと食材が届くが、行事食として利用者とともに作るサンドイッチやホットプレートでお好み焼き、焼きそばを作ったり出前で生寿司を取ったり近隣温泉にバイキングに行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の嗜好や嚥下状態に合わせた食事形態で食事や水分を提供し、チェック表を用い食事量、水分量が確保出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にそれぞれの能力に合わせ出来ない部分を介助や声掛けを行い、口腔内の清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて排泄間隔を把握しやすいようにして、適時羞恥心に配慮して声掛け等を行っている。昼夜共にトイレで排泄出来るように支援している。	排尿排便表で健康状態を確認しながら、必要に応じて下剤で整腸管理をしている。利用者の耳元に小声で話しかけてトイレに誘導している。自立している人が多いが、パット類は居室に保管している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や乳製品の摂取などで便秘予防に取り組んでいる。また訪問診療等の際にも医師へ相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日の固定はせず、毎日午後から入浴可能で入浴間隔の空いている方から順に声掛けを行っている。強い拒否がある場合には、タイミングを見計らって清拭などで対応している。入浴剤等を活用し、快適に入浴出来るよう支援している。	毎日午後週2回から4回程度の入浴をしている。拒否がある場合は清拭をしているが、声かけやタイミングでスムーズな入浴を促している。見守りの中、職員と会話をしながら快適に入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせ、室温、湿度、音等の環境調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をスタッフがいつでも確認出来るように設置している。種類や量など薬の変更のあった際には申し送りや日誌を用い、全員に伝えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味嗜好に合わせ、楽しみを持ち続けられるように支援している。		

ふれあいの里 グループホーム おやふね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体調を考慮し、天気の良い日は近隣の散歩やウッドデッキに出て外気に触れるように支援している。外出行事等で季節感を味わってもらおうよう努めている。冬季を含め、受診時など個別に普段に行けないような所に出掛けるように支援している。	近くの堤防まで日々散歩をしたり、ウッドデッキでの日光浴や玄関先で外気浴をしている。地区の鮭祭りや夏祭りに出かけたり、ドライブで花見や厚田まで行くこともある。車での病院受診の際に寄り道をすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針で個々の預かり金は無いが、会社立替金としてご家族の了解を得て、買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により対応している。頻回な場合はご家族に相談して、協力していただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けや行事の写真などで強い刺激が無いように、入居者が落ち着ける環境作りに努めている。	床はフローリングで床暖房になっているため安全で暖かであり、手すりの付いた広い廊下に、トイレが4か所ある。居間に大きな手作りカレンダーやテレビがあり、季節の飾りで温かみのある共有空間となっている。日当たりの良い広いウッドデッキも落ち着ける場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は自由な場所で過ごしていただきソファに座って読書やテレビを観る方、食卓でテレビを観ながら他入居者と談話するなど思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら安全に配慮して、出来るだけ馴染みの物を持って来て貰っている。	居室にはテレビやカレンダー、家族の写真、使い慣れた物品を置き、安心して過ごせる部屋になっている。各居室に温湿度計があり、職員が利用者の好みに合わせ床暖房の温度を調整している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、室内全てがバリアフリーになっており、トイレの場所などをわかりやすいように表示している。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームおやふね

作成日：平成 27年 12月 24日

市町村受理日：平成 27年 12月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に町内会役員や家族の参加が得られるよう、継続的な働きかけをする。	・町内会役員の定期的な参加を得る。 ・家族の参加が得られる。 ・家族の意見を反映することが出来る。	・町内会行事など参加時にその都度協力を要請する。 ・家族来訪時には運営推進会議の意味や議題内容を伝え、意見を募り、いただいた意見を会議で話し合い、議事録に載せ、関心を持っていただく。	1年
2	23	アセスメントシートについて記入内容を徐々に増やし、個々の思いや暮らし方の希望などの情報を充実させる。	・アセスメントシートを定期的に更新出来る。 ・情報を蓄積して介護計画に反映させることが出来る。	・会話や生活の様子を観察し、意向沿って対応できるように情報を蓄積していく。 ・意思疎通が難しい入居者様の思いや意向は職員視線にならないようにその都度、会議などで検討していく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。